

人工林の公益的機能回復に取り組んだ事例

事業名：環境貢献林整備事業

市町名：世羅町

取組のきっかけ・経緯

・町内に森林を所有されている方からの要望や、町広報誌による施業箇所の募集を行い、人工林について整備を実施することとした。

今後の展開

・近年の集中豪雨の状況に鑑み、今後も、長年手入れのされていない人工林の整備を進め、森林の持つ公益的機能の発揮を目指す。

取組の内容

- ・事業主体：世羅郡森林組合
- ・実施場所：町内39箇所
- ・実施量：17.81ha
- ・実施金額：7,4867千円
- ・実施期間：令和4年6月4日～令和5年3月20日

取組後の感想

【良かった点】

・町広報誌へ施業箇所の募集を掲載したことにより、事業要望だけではなく、自らが所有する山林について関心を持たれた方からの問い合わせが多くあった。

【整備前】



【整備後】



荒れた里山の景観保全に取り組んだ事例

事業名：里山林整備事業（環境改善型）

市町名：世羅町

取組のきっかけ・経緯

・松枯れ被害が多く、尚且つ事業効果を見込める、世羅町内の主要道路であるフルーツロードと県道56号線が交わる交差点付近の里山林の整備について、補助を行った。

今後の展開

・町内では依然として松枯れ被害が多いため、特に主要道路を要件としながら事業の申請を募り、健全な里山林へと誘導していく。

取組の内容

- ・事業主体：世羅郡森林組合
- ・実施場所：世羅町大字徳市・安田地区
- ・実施量：森林整備4.94ha
森林調査2.98ha
- ・実施金額：8,778千円
- ・実施期間：令和4年12月22日～令和5年3月31日

【整備後】



取組後の感想

【良かった点】

・景観保全だけでなく、鳥獣の棲み処となりにくい山へと整備することができた。

【整備後】



歴史的文化的文化財と森林が織りなす景観を保全した事例

事業名：特認事業（地域資源保全活用事業）

市町名：世羅町

取組のきっかけ・経緯

・事業実施地区は歴史的文化的文化財が多く存在する森林であり、林内には「いこいの森」や「遊歩道」・「展望台」などが整備され、多くの人々が訪れる場所となっている。しかし近年、小径木が密生し、林内が薄暗くなっている。そこで、甲山史跡・名所伝承保全会が計画を作成し、景観の保全に努め、より多くの人々が自然に親しめる環境を整えるため、本事業に取り組むこととした。

取組の内容

- ・事業主体：甲山史跡・名所伝承保全会
- ・実施場所：世羅町大字甲山地区
- ・実施量：16.81ha
- ・実施総額：43,028千円（5か年計）
- ・実施期間：平成30年度～令和4年度

【整備後】



今後の展開

- ・引き続き、保全会が中心となり、保全活動や森林体験活動を実施していく。
- ・今高野山開基1,200年を迎えるにあたり、事業地を活用した体験活動を実施し、事業PR活動を推進していく。

取組後の感想

【良かった点】

- ・林内に設置されている休憩小屋周辺の森林整備を実施したことにより、林内に日が差し込み、山へ入りやすい環境を整えることができた。
- ・遊歩道を整備し、案内看板や、ベンチを作成・設置して事業のPRを行うことができた。

【整備後】



【活動の様子】



歴史的建造物を取り囲む社叢の保全を行った事例

事業名：特認事業（地域資源保全活用事業）

市町名：世羅町

取組のきっかけ・経緯

・事業実施地区は町史跡に指定される茶臼城跡地周辺の森林であり、林内には、鎌倉時代からの歴史的建造物が多数存在する。しかし近年では、竹林が繁茂し、林内が日中でも薄暗い状態となっている。そこで、茶臼山保全会が計画を作成し、地域のシンボリック存在の茶臼山を整備し、地域の活性化を図るため、本事業に取り組むこととした。

取組の内容

- ・事業主体：茶臼山保全会
- ・実施場所：世羅町大字下津田地区
- ・実施量：森林整備6ha
遊歩道433m
- ・実施総額：20,650千円（3か年計）
- ・実施期間：令和2年度～令和4年度



整備後



整備後

今後の展開

- ・引き続き、保全会が中心となり、保全活動や森林体験活動を実施していく。
- ・竹林が再び繁茂しないよう、地域住民等で除去を行っていく。

取組後の感想

【良かった点】

- ・侵入竹の除去を重点的に行ったため、景観の保全と、山へ入りやすい環境を整えることができた。
- ・東屋など利用促進施設を整備することができた。

【悪かった点】

- ・駐車場が無いため、整備作業等で資機材を運ぶのが不便だった。



活動の様子



東屋

希少植物が自生する湿地周辺の山林を保全した事例

事業名：特認事業（地域資源保全活用事業）

市町名：世羅町

取組のきっかけ・経緯

・本計画実施地は、国及び県のレッドデータブックで絶滅危惧種に指定されている、ヤチシャジンが自生している湿地を含む森林である。しかし、湿地近くの山林は、山林所有者の高齢化が進み手入れ不足となっている。そのため、これまで湿地周辺の保全活動を続けてきた「世羅の自然をまもる会」が主体となって景観の保全や水源かん養機能の回復を図るため、本事業に取り組むこととした。

今後の展開

・引き続き世羅の自然をまもる会が主体となって、湿地周辺の森林整備や希少植物の保護活動を行う。
・湿地上流から下流にかけて一体的に整備していく。

取組の内容

- ・事業主体：世羅の自然をまもる会
- ・実施場所：世羅町大字小世良地区
- ・実施量：1.95ha
- ・実施総額：9,117千円（2か年計）
- ・実施期間：令和3年度～令和4年度

取組後の感想

【良かった点】

- ・湿地周辺の森林整備を行ったことにより、日光を遮る物がなくなり、希少植物の保全に繋げることができた。
- ・昨年の反省を生かしてベンチを設置し、利用者の利便性向上を図った。



活動の様子



ヤチシャジン



【整備したベンチ】

土砂災害から地域を守るため森林整備をした事例

事業名：特認事業（里山防災林整備事業）

市町名：世羅町

取組のきっかけ・経緯

- ・本事業地は、平成22年7月豪雨によって死者1名、負傷者1名、家屋の一部損壊が2棟という甚大な被害を受けた地区である。
- ・当該地は、林地荒廃（松枯れ）による倒木等により、本来の溪間と違う場所にも土砂が流出し、被害が拡大した経緯があり、森林整備が必須であることから、里山防災林整備事業によって事業を実施する運びとなった。

今後の展開

- ・川尻下地区里山防災会で、連携していくことで、地域全体で防災についての理解を深める。

取組の内容

- ・事業主体：川尻下地区里山防災会
- ・実施場所：世羅町大字川尻地区
- ・実施量：森林整備0.75ha
森林調査12ha
- ・実施金額：6,654千円
- ・実施期間：令和4年度

取組後の感想

【良かった点】

- ・松枯れによって荒れていた林内を整備したことによって、土砂災害の危険性を軽減できた。

【悪かった点】

- ・今年度は一部分だけの整備にとどまった。危険性低減のためにも整備区域を広める必要がある。

【整備前】



【整備後】



農地を鳥獣被害から守るため森林整備をした事例

事業名：特認事業（里山林課題解決推進事業）

市町名：世羅町

取組のきっかけ・経緯

・甲山地区では近年鳥獣被害が増加している。田畑の周囲に電気柵やメッシュ柵を設置する等対策をとっているが、有害鳥獣の隠れ場所になるような里山林に接しているため、その効果を十分に発揮できていない。鳥獣被害対策の効果を最大限に発揮させるため、整備を行うこととなった。

取組の内容

- ・事業主体：甲山地区検討部会
（甲山史跡・名所伝承保全会）
- ・実施場所：世羅町大字甲山地区
- ・実施量：森林整備2.31ha
- ・実施金額：6,600千円
- ・実施期間：令和4年度

【整備前】（上：イノシシが穴を掘った跡）



今後の展開

・引き続き甲山地区検討部会で、連携していくことで、被害の状況や効果的な施業方法を話し合い、効果的な対策を行っていく。

取組後の感想

【良かった点】

- ・枯損木が繁茂していた林内に光が差し込み見通しが良くなった。
- ・検討部会を開催し、専門家等の話を聞いたことで、効果的な施業方法を話し合うことができた。

【検討部会の様子】



【整備後】



農地を鳥獣被害から守るための森林整備を行った事例

事業名：特認事業（里山林課題解決推進事業）

市町名：世羅町

取組のきっかけ・経緯

・青近地区では近年鳥獣被害が増加している。田畑の周囲に電気柵やメッシュ柵を設置する等対策をとっているが、有害鳥獣の隠れ場所になるような里山林に接しているため、その効果を十分に発揮できていない。鳥獣被害対策の効果を最大限に発揮させるため、整備を行うこととなった。

取組の内容

- ・事業主体：青近地区検討部会（君影会）
- ・実施場所：世羅町大字青近地区
- ・実施量：森林整備2.39ha
- ・実施金額：9,130千円
- ・実施期間：令和4年度

【整備前】



【整備後】



今後の展開

・引き続き青近地区検討部会で、連携していくことで、被害の状況や効果的な施業方法を話し合い、効果的な対策を行っていく。

取組後の感想

【良かった点】

- ・枯損木が繁茂していた林内に光が差し込み見通しが良くなった。
- ・同様の課題を抱える他3地区と合同で検討部会を開催し、専門家等の話を聞いたことで、効果的な施業方法を話し合うことができた。

【検討部会の様子】



【整備後】見通しが良くなりました。



農地を鳥獣被害から守るための森林整備を行った事例

事業名：特認事業（里山林課題解決推進事業）

市町名：世羅町

取組のきっかけ・経緯

・下津田地区では近年鳥獣被害が増加している。田畑の周囲に電気柵やメッシュ柵を設置する等対策をとっているが、有害鳥獣の隠れ場所になるような里山林に接しているため、その効果を十分に発揮できていない。また、サギのコロニーも形成されており、対策が必要との声が上がった。そこで、鳥獣被害対策の効果を最大限に発揮させるため、整備を行うこととなった。

取組の内容

- ・事業主体：下津田地区検討部会（茶臼山保全会）
- ・実施場所：世羅町大字下津田地区
- ・実施量：1.57ha
- ・実施金額：7,425千円
- ・実施期間：令和4年度

【整備前】



【整備後】



今後の展開

・引き続き下津田地区検討部会で、連携していくことで、被害の状況や効果的な施業方法を話し合い、効果的な対策を行っていく。

取組後の感想

【良かった点】

- ・枯損木が繁茂していた林内に光が差し込み見通しが良くなった。
- ・同様の課題を抱える他3地区と合同で検討部会を開催し、専門家等の話を聞いたことで、効果的な施業方法を話し合うことができた。

【検討部会の様子】



【整備後】サギのコロニーの竹林を伐採



農地を鳥獣被害から守るための森林整備を行った事例

事業名：特認事業（里山林課題解決推進事業）

市町名：世羅町

取組のきっかけ・経緯

・小世良地区では近年鳥獣被害が増加している。田畑の周囲に電気柵やメッシュ柵を設置する等対策をとっているが、有害鳥獣の隠れ場所になるような里山林に接しているため、その効果を十分に発揮できていない。また、サギのコロニーも形成されているので対策が必要という声が上がった。鳥獣被害対策の効果を最大限に発揮させるため、整備を行うこととなった。

取組の内容

- ・事業主体：小世良地区検討部会
（時森迫谷地区里山保存会）
- ・実施場所：世羅町大字小世良地区
- ・実施量：2.24ha
- ・実施金額：5,333千円
- ・実施期間：令和4年度

【整備前】



【整備後】



今後の展開

・引き続き小世良地区検討部会で、連携していくことで、被害の状況や効果的な施業方法を話し合い、効果的な対策を行っていく。

取組後の感想

【良かった点】

- ・枯損木が繁茂していた林内に光が差し込み見通しが良くなった。
- ・同様の課題を抱える他3地区と合同で検討部会を開催し、専門家等の話を聞いたことで、効果的な施業方法を話し合うことができた。

【検討部会の様子】



【整備後】見通しが良くなりました。



歴史的・文化的資源周辺の森林を整備した事例

事業名：特認事業（里山林課題解決推進事業）

市町名：世羅町

取組のきっかけ・経緯

- ・事業実施区域は枯木八幡神社・野原八幡神社・観音寺広場周辺の森林である。現在まで観音寺広場は地域行事を実施する場として利用されている。
- ・周辺の森林は、高齢化により荒れ続け放置されたままであり、土砂災害危険区域に指定されている箇所もあるため、森林の公益機能の維持増進を図る必要がある。
- ・そのため、津口森づくりの会が主体となって景観の保全や山地災害防止機能の指揮を図ることとなった。

取組の内容

- ・事業主体：津口森づくりの会
- ・実施場所：世羅町大字津口地区
- ・実施量：0.46ha
- ・実施金額：9,340千円
- ・実施期間：令和4年度

【整備前】



【整備後】



今後の展開

- ・今後も津口森づくりの会が中心となって、野原八幡神社・枯木八幡神社・観音寺広場それぞれの箇所に近接している地域住民が集まり、寺や神社の維持管理と併せ、清掃活動等、森林保全活動を行っていく。

取組後の感想

【良かった点】

- ・枯木八幡神社広場周辺の森林整備を行ったことにより、景観の保全と神社へ迫っていた危険木を撤去することができた。
- ・検討部会を開き、専門家も交えて津口地区の歴史や神社を守っていくことの重要性を再認識できた。

【検討部会の様子】



【活動の様子】

